

した。

賤子しずこは、生徒たちに対して、相手のもつともよいところをみつけ出すのがじょうずでした。その教え方は、自分で最後までやってみる、全力をつくしてとことんまでやってみる——それを見ていて、まわりの人たちも、勇気を出して努力させるようにしむけるのでした。

賤子は、明治二十二年に、二十六歳で巖本善治いわもとよしはると結婚して、フェリス女学院の先生をやめます。夫の巖本善治は明治女学校を経営けいえいし、『女学雜誌じょがくざっし』という新しい時代の雑誌を発行していました。その学校も雑誌も、これからの世の中を生きぬいていく女子を育てていこうというものでした。今まで、家の中でおさえつけられていた女子の、社会的な地位を向上こうじょうさせようというねらいをもっていました。二人の結婚は、こうした女子教育についての二人の考えが同じであったことから出発しました。